

教 区 報

第113号 2020年6月

日本ハリストス正教会教団 東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428 「東日本主教々区宗務局」



<http://www.orthodox-sendai.com/>
orthodox@hyper.ocn.ne.jp



聖神降臨祭



崇め讃めらるる哉
ハリストス我等の神よ、
爾は漁者に聖神を遣して
睿智者と為し、
彼等を以て世界を漁し得たり、
人を愛する主よ、光栄は爾に帰す

— 聖神降臨祭トロパリ —

教会は主の復活からの五十日目を『聖神降臨祭』としてこの偉大な日を記憶している。この聖神はどこにでも吹く激しい風のようにであり、暖める炎のようであり、世界の民族の言語を作る力を持っている。人に呼吸が必要のように、信仰生活を送る上で聖神の助けは必要であり、

主は復活されてから四十日間に亘り使徒たちに現れ、彼らの目の前で『昇天』された。その十日後、五旬祭の日に彼らに聖神を送られた。この時から福音を伝えることが彼らの使命となり、人々に新たな生活をもたらす働きをすることとなった。

聖神は、生きてゆくうえで恐怖に襲われ、互いの信頼を失いかけるとき、勇気をあたえ、愛に満ちた息吹を吹きかけてくださる。そして私たちの胸に聖なる喜びを抱いて生きて行けるように神に願うのである。

神・父の愛を各人に満たし、励ますのである。また人と人を隔てる不寛容、貧困、傲慢、偏見、民族、宗教などによって人の心に生まれる障壁を聖神によって砕き、平和を生み出すように導く。この導きをもって教会は福音を待ち望む人々に、救い主イエスの生涯と言葉を伝えていく。



■石巻管轄

石巻では教衆と司祭の家族のみで聖大パスハ聖体礼儀を祝った。また、一度に参拝者が集まることを避けて、光明週間の月曜と土曜に聖体礼儀を行った。

■仙台管轄

二〇二〇年四月十九日(日)、管轄司祭在住教会では復活大祭の奉事が行われた。新型コロナウイルスの影響で異例尽くしの形となったが、参拝が叶わなかった信徒も主の復活をそれぞれに噛みしめて迎えたのではないだろうか。ここに全てではないが各地の復活祭の様子を伝える。

■一関管轄

一関では当日の朝に復活祭が行われ日形の信徒も加わった。岩手県は唯一コロナウイルスの陽性感染者がいないとされピリピリ感は薄い。日形で四月二十一日に墓地祈禱が、金成は五月三日に十人で復活祭が行われた。





■盛岡管轄

盛岡では当初は深夜に復活祭を行う予定だったが、感染リスクを避けるために直前に当日朝の祈禱、規模縮小となった。しかし、信徒の協力の下、素晴らしい復活祭を行うことができた。北鹿では四月二十五日(土)、復活祭聖体礼儀に先立ち洗礼も行われ、二重におめでたい喜びの日となった。

■函館管轄

函館でも当日朝、種々の感染防止策を講じながら行われた。思いの外多くの参拝者があり、例年通り十字行も出来た。上磯では五月十日(日)午前、函館からの信者も加わり行った。毎年沢山の信徒が集まる墓地祈禱はやむなく中止となった。



■札幌管轄

当日は暖かな天候だったが、ウイルス感染防止策による参拝自粛要請のため、参拝者は四十名程だった。四月二十六日には小樽で、五月三日には苫小牧で復活祭は行われた。

■釧路管轄

午前〇時より司祭夫婦二名にて聖大パスハ聖体礼儀を行った。信徒の参拝を中止しインターネットの動画配信サービスを用いてのライブ配信をした。十時より聖堂玄関前に机を並べ、紅卵を成聖し、十一名が参拝して「ハリストス復活！」と呼び合って僅かな時間だったが喜びを共にした。



セラフィム大主教座下ご動静

昨年の全国公会以降、東京の副主教としてのお勤めも精力的にこなされ、多忙な日々をお過ごしセラフィム大主教座下のご動静をお伝えします。

大主教座下の聖名祭



▲モレーベンの最後で「幾年も」を祈り、セラフィム大主教座下の祝福を受ける参拝者たち

仙台正教会では、1月12日(日)に暦を先取りして割礼祭(聖大ワシリイ祭)と併せてセラフィム大主教座下の聖名祭であるサロフの聖セラフィム祭の奉事が行われた。聖体礼儀に続いて、1月の聖名祭と成人の日を迎えたお二人のためのモレーベンが行われた。祈祷後、水口神父より着座20周年を迎えたセラフィム大主教座下に祝辞が述べられ、続いて東日本主教々区の神品一同からのお祝いと、仙台正教会からお祝いの花束と婦人会・方舟会・聖歌隊からの贈物が渡され、参拝者一同「幾年も」を唱和した。

キリル総主教聖下 着座11周年記念式典参加



▲モスクワの救世主大聖堂での記念聖体礼儀

セラフィム大主教座下は、1月29日から2月4日にかけてキリル総主教聖下着座11周年記念式典出席のために訪露された。2月1日(土)、モスクワの救世主大聖堂で三百名近い主教品により記念聖体礼儀が執り行われた。2月2日(日)はモスクワ市オルディンカ大路にある『全ての悲しむ者の喜び』生神女聖像記念大聖堂において渉外局長イラリオン府主教座下、キエフ神学アカデミア及びセミナリアの学長シルベストル主教座下と共に聖体礼儀を行われた。祈祷後には「二〇二〇年という年は日本正教会の聖自治の祝福を受けてから五〇年、ロシア正教会の日本宣教団の発足から一五〇年という記念すべき年である」と挨拶なさった。



▲挨拶なさるセラフィム大主教座下

東京復活大聖堂での奉事

日本の亜使徒聖ニコライ祭



2月15日から16日にかけて東京に向かれたセラフイム大主教座下は、丁度主日と重なった「亜使徒聖ニコライ祭」をニコライ堂で司務された。16日(日)の聖体礼儀と、聖ニコライの不朽体を前に「聖人に寄り恃む祈禱(モレーベン)」を執り行われた。

大斎祈禱と復活大祭のご司務



5月10日(日)は、主日聖体礼儀後に故フェオドシ永島府主教座下とペトル有原主教座下のリティヤを献じられた。

セラフイム大主教座下は3月7日(土)から15日(日)にかけて東京に赴かれ、主日の祈禱を二回ご司務なさった。また11日(水)と13日(金)には、先備聖体礼儀を執り行われた。

また4月には聖枝祭、受難週、復活大祭の祈禱をご司務なさった。奉事はコロナ禍により全て非公開で聖職者のみで行われた。19日(日)朝9時より、聖職者と数人の堂役及び詠隊で復活大祭祈禱が行われた。一般参拝者のいない復活祭は極めて異例の事態であった。



▲ニコライ堂における復活大祭 4/19



▲故フェオドシ永島府主教座下とペトル有原主教座下のリティヤをご司務 5/10

正教会の言葉

私たちは神・聖神に向かって祈る時、「天の王、慰むる者や、」で始まる祈禱を捧げます。この中の「慰むる者」という言葉は、イオアンによる福音書の中に出てくる「撫恤者」（なぐさむるもの）から取られたものです。「撫恤者」とは「即ち聖神」のことです（14章26節）。他にも「我が父より爾等に遣さんとする撫恤者、真実の神、父より出づる者は来らん時、彼、我の事を証せん」（15章26節）とあります。

「なぐさむるもの」とふりがなが振ってありますが、漢字としては「なでる」「さする」「いたわる」という意味の「撫」と、「心配する」「あわれむ」「めぐむ」という意味の「恤」が使われています。「撫恤（ぶじゅつ）」という熟語を広辞苑で引くと「いつくしみあわれむこと」とあります。祈禱書などでは撫恤者を「ぶじゅつしや」と読ませていたりします。

「撫恤者」と訳された原語は「パラクレトス」といい、もともと「（補助や救助のために）そばに呼び寄せられた者」という意味をもっていて、そこから「助け主」（口語訳）、「弁護者」（新共同訳）、「守護するもの」（バルバロ訳）など、様々な翻訳がなされています。これを正教会は「撫恤者」と訳しました（ただし『新約』では当初は「慰むる者」と書いていたが校正の時に「撫恤」の漢字を当てたらしい）。

なぐさむるもの

「撫恤者」 長司祭 ダヴィド 水口優明

日本語の「なぐさむ」は、一説によれば、滑らかな音声を表す「ナ」を元にした「やわらぐ」「静まる」「穏やかになる」を表す「ナグル」から派生した言葉で、「心を落ち着かせる」「憂いを解き、その心を平安にする」という意味になったということです。

神・聖神は、まさしくイイススと別れた弟子たちの憂いを解き、平安にし、力づけ、励まし、信仰を育む働きをしました。弟子たちは「聖神の慰を得て」（使徒行実9章31節）、教会を大きくしていきました。聖使徒パウエルは、神・聖神の思いは「生命」であり「平安」であると教えました（ロマ8章6節）。

聖師父の代表である聖金口イオアンは「ハリストスが聖神を『撫恤者』と呼んでいるのは、彼等（弟子たち）が抱えている苦しみのためである」と解説し、問答者聖グリゴリイは「撫恤者は、痛悔する者の悲しみを解き、赦しの希望によって元気づける」と教えています。

21世紀の困難な時代に生きる私たちも、今こそ「撫恤者」である神・聖神への祈りを熱心に持つことが必要です。「天の王、慰むる者や、来たりて我等の中に居り、我等の霊を救い給え」。



長司祭ワシリイ加藤國枝神父様の休職



1月26日(日)主日聖体礼儀後に、仙台では1月末に休職なさった長司祭ワシリイ加藤神父様の慰労感謝会が行われた。神父様は昭和47年に輔祭叙聖、昭和55年長輔祭昇叙、平成8年司祭叙聖、平成28年に長司祭に昇叙され、神品として40年の長きにわたり奉職された。これまでの数々のご功績に対しセラフィム大主教座下より感謝の言葉が述べられ、記念品と感謝状が教団からの慰労金と併せて加藤神父様に渡された。また教会から花束や感謝の贈り物も渡され「幾年も」が祈られた。



慰労感謝会は信徒会館で開かれ、加藤神父様のご挨拶に続いて婦人会、方舟会、聖歌隊から御礼の品々が渡された。思い出話を語ってくださる方もあり、最後は、皆で歌を歌い、長い間仙台正教会のためにご尽力下さった加藤神父様への深い感謝の気持ちが伝えられた。



大斎祈祷研修行われる

3月2日(月)から始まった大斎初週祈祷は、仙台正教会において、新しく叙聖された盛岡正教会管轄司祭ピーメン松島神父とマトシカの研修の機会となった。

先備聖体礼儀を含む毎日の朝晩の祈りはセラフィム大主教座下のご指導を受けながらピーメン松島神父が司持した。クリステイーナ松島マシトカも誦経や聖歌の研修を受け、毎日、三時課と六時課を誦経した。大主教座下から直接に教えていただいた司祭研修は大変貴重な機会となったことであろう。





▲エカテリナ児玉繁子姉



▲エレナ笠原茂子姉



▲実技指導を中心とした研修会



▲エフレム後藤悠太神父



▲クリメント児玉慎一神父



▲「信徒学びの会」に集まった参加者と札幌教会信徒

北海道ブロック 聖歌研修会・信徒学びの会

1月24日(金)から26日(日)まで札幌正教会を会場に北海道各地の教会から参加者を集めて標記研修会と「信徒学びの会」が行われた。今年の講師はエカテリナ児玉繁子姉とエレナ笠原茂子姉。座学よりも実技指導を中心とした。

24日午後から研修のオリエンテーションが始まり、早速二人の講師による実技指導が行われた。初日は復活祭期の「神の使い」、晩祷聖歌と指揮法を取り上げ、何度も練習が重ねられた。25日は初めにクリメント児玉神父から

「信仰ー私と教会とのつながり」というテーマで講話が行われた。その後、埋葬式、聖体礼儀聖歌、誦経者とのコンビネーションの練習を行った。晩祷では担当者を決めて実践に臨んだ。

翌26日は主日聖体礼儀、大聖水式を参加者が分担して聖歌指揮に立って研修した。祈禱後、信徒会館で「信徒学びの会」が行われ、エフレム後藤神父から「イイススの祈り」をテーマに講話があった。研修後の反省会では、様々な意見や感想が述べられた。



▲神現祭聖体礼儀と大聖水式が行われた



▲総パニヒダで永遠の記憶を献じる



▲水口神父の講話に耳を傾ける



東北ブロック 宣教キャラバン ～上下堤正教会で開催～

3月20日(金)春分の日の11時より、上下堤正教会において「宣教キャラバン」が開催された。以前には年に3回行われ、各地の教会を神父と宣教委員が訪れて交流する東北ブロックの目玉行事だったが、今回久しぶりの開催となった。

当日は23人が集い、上下堤正教会の総パニヒダと水口神父の「心の大切さ」をテーマにした講話が行われた。また地元信徒が準備した心のこもった美味しい斎食を共にしながら歓談し、和気あいあいと親しい交流が出来た。



東北ブロック 宣教委員会

2月6日(木)、一関教会で東北ブロック宣教会議が開かれた。SNS問題の話題から始まり、教区と各教会の現状報告や、教区としての今後の活動についての話し合いも進められた。特に教区マップについても、改訂版の発行が待ち望まれているものでもあり、熱心な討議が行われた。





イコンと十字架 県重要文化財指定(白河)

白河正教会にある至聖三者の聖像と就寝聖像並びに大十字架(いずれも山下りんの作とされる)が新たに福島県の重要文化財の指定を受けた。白河正教会はすでに聖堂と共に48点のイコンが文化財の指定を受けており、この度3点が追加された。

至聖三者の聖像と大十字架は至聖所の奥にあり、就寝聖像も普段は信徒の目に触れないが、この指定で改めて価値が認識された。

地元の新聞「福島民報」にも大きく取り上げられ、市民の注目が集まっている。



▲福島民報 2020年2月17日掲載

聖堂保存修理事業(函館) 令和2年12月より開始

平成28年度から実施された「聖堂耐震診断」の結果を受け、文化庁や関係諸機関と協議を進め、鐘楼部の耐震工事と併せて聖堂全体の保存修理事業が計画された。総事業費は約四億五千万円で、国、道、市、教会が分担して負担する。今年3月にセラフイム大主教座下の祝福の下、教団へ工事申請をし認可を受けて、4月に文化庁に国庫補助事業の申請を行った。予定では今年中に実施設計を完了し、2か年の工事を年末から開始する。一九八八年以来の本格的修理事業が無事終わることを願っている。

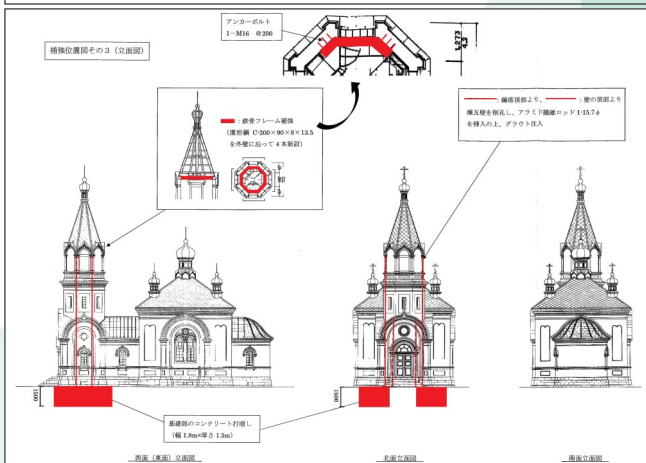
■聖堂保存修理事業の概要

[工期]

- ・令和2年度(2020年)12月末工事着手
- ・令和4年度(2022年)12月中旬竣工引渡

[内容]

- ・鐘楼部分の耐震工事
- ・屋根葺き替え
- ・外壁の漆喰の全面補修
- ・イコノスタスとイコン修復
- ・建具、電気設備等の更新と改善



【訃報】

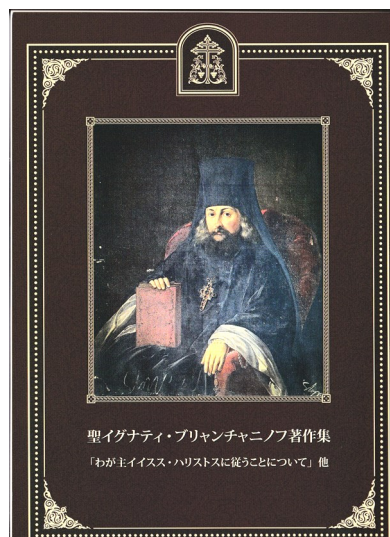
4月15日(水)、かねてより休職されていた首司祭イウスチン山口義人神父様(86歳)が心不全によりご永眠された。

葬儀は4月17日(金)に通夜、18日(土)に埋葬式がニコライ堂にてセラフィム大主教座下のご司祷、宗務総局長代務者長司祭マルコ小池神父、東京復活大聖堂を代表して司祭ミハイル対中神父、イリヤ武井長輔祭の陪祷で執り行われた。永遠の記憶。



―図書案内―

『聖イグナティ・ブリヤンチャニノフ著作集』



東日本主教教区宗務局 発行

アレクセイ・ポタポフノ

マトフェイ土田定克 翻訳

簡易製本 A5版 全三三三頁

頒布献金 一冊 一三〇〇円

東日本主教教区宗務局ではこの度、宣教ブックレットとして十九世紀ロシアの三大師父の一人、聖イグナティ・ブリヤンチャニノフの著作集の中から厳選したものを翻訳し一冊にした本を刊行しましたのでご案内申し上げます。

聖イグナティ・ブリヤンチャニノフは敬神家、多数の書を著した作家、高德の修道士、信仰生活の教師とされ、成聖者として列聖されました。彼の著作集は「聖師父の教えの本質を深く掘り下げ、聖師父の精神を受け継いでおり、現代の信徒に読み易く、分かり易いもの」と言われています。

難しいことを分かり易く、分かり易いことを深く書かれた本書は聖師父の言葉から聖書の理解へと進み、信徒の信仰生活における霊的な糧となるに違いありません。是非皆様もご一読下さい。

本文より一部抜粋(百五十一〜百五十二頁)

「(安和を守れ)」

主は、力を尽して「隣人との安和」を守るように教えられた(マトフェイ五・二三〜二六)。使徒も、「もしよ能くすべくば、なんじらの力を尽くして衆人と相和せよ」(ロマ二・一八)と述べている。悪いのは自分か隣人か黒白をつけようとするのではなく、むしろ自分が悪いと思うようにし、へりくだって隣人との安和を守るようにしなさい。」

公 示

東日本主教々区各教会
教役者及び信徒代議員 各位

十ハリストス復活！

二〇二〇（令和二）年度東日本主教
教区「教区会議」を左記の日程により
開催します。

記

一、場所 仙台ハリストス正教会

二、日時 6月28日(日) 12時半より

※詳細は後日送付される開催要項を
ご覧ください。

令和2年5月19日

日本ハリストス正教会教団

東日本主教々区

仙台の大主教及び東京の副主教

セラフイム

人物消息

― 敬称略 ―

（2019年12月～2020年4月）

◆永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」

札幌 フォマ 引田五郎 2月3日

メラニヤ 長岡恵美子 2月4日

アンナ 引田圭子 3月13日

ニーコン 高橋鉄郎 4月3日

苦小牧リュボフ 嶺野元子 2月7日

斜里 アキラ 中島 巖 1月25日

盛岡 ソフィヤ 林 久美子 12月2日

一関 アナスタシヤ山内洋子 1月18日

盛 ステファン 菊池重司 2月21日

金成 アキラ 八重柏 昭 11月24日

十文字シモン 菅原文寿 3月14日

エレナ 佐藤敏枝 4月1日

日形 イウスチン 小野寺 哲 1月21日

佐沼 太田照子 3月25日

仙台 マルフア 小野寺キリ 3月8日

白河 ユリヤ 渋谷ハルノ 12月1日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

◆洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」

函館 マトフェイ 太田健一 4月12日

北鹿 イオアンナ 畠山久美 4月29日

中新田ルキナ 熊谷瑠仁 12月22日

エカテリーナ三浦麻美 12月22日

※洗礼おめでとうございます。

◆婚配「教会名・聖名・氏名・婚配日」

中新田ステファン 渡邊大介 2月22日

エカテリーナ三浦麻美

※婚配おめでとうございます。



▲新郎はセルギイ渡邊執事長の長男ステファン大介兄、頭に掲げられた王冠は、親子二代にわたって使用された